

発見!

たからモノ ただみの文化遺産

第11回

第2回テーマ展 身につける民具

現在
開催中



伝統的な仕事着

山仕事や田畑仕事の時、暑さ寒さ、風や日ざしから身を守るのが仕事着です。国指定民具の仕事着コレクションには、1940年代ごろから2000年ごろに用いられた伝統的な仕事着が集められています。只見の人々は仕事着を自分で作って、当て布や刺し子で補強しながら、仕事がしやすいものに工夫して一着を長く着ました。長年着てきた仕事着は体になじみ、仕事の頼もしいパートナーとなりました。



▲麻の葉文様のサシコジバン(部分) ▲当て布のサシコジュバン(部分)

虫めがねで観察しよう

仕事着の素材は綿・麻などの自然素材で、織り方や模様は江戸時代以来の伝統的なものです。今回の展示では、入館者に虫めがねを持ってもらい、仕事着の模様や織り方を拡大して観察していただきます。民芸運動の柳宗悦は、日常の用具は「用いられて美しく、美しくなるがゆえに、人はさらにそれを用いる」(『雑器の美』1926年)と説きました。虫めがねを持って、暮らしを彩った美しい民具の織り目や文様と、暮らしの智恵と技を観てください。

(久野俊彦)

ここからは、第2回テーマ展で展示される民具の中から3つの民具を紹介します。

バンドリ 素材：ワラ・スゲ



バンドリは、重い荷物を運ぶ際に使用した背中当てです。ワラとスゲで編んで作られています。背中に当たる面を拡大してみると、編み目が丁寧で美しいです。



ネコミノ 素材：スゲ・布・ワラ

ネコミノは、重い荷物や固いものを運ぶ際に使用されました。ニナ(荷縄)が肩に食い込んだり、背中に固いものが当たるのを和らげる効果があります。中には装飾されたものもあり、家印や文様を、布で編みこむことで表現しています。



ボロオビ 素材：絹・布



ボロオビは、女性が仕事着を着る際につけた帯です。縦糸に絹を、横糸には古着や端切れ布を裂いて使用しました。各家庭で織られました。使用された糸によって、さまざまな色のものがあります。日常を彩った民具です。

(原永円香)

写真：原永円香



ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報

入館無料

第2回テーマ展「身につける民具」

会期：2024年2月6日(火)～2024年6月16日(日)

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール